

【事務局からの重要なお知らせ】

現段階では通常通りに大会を開催する予定です

現在、新型コロナウイルス感染症がパンデミックの状態にある影響で、大規模な国際学会では既に今年度上半期の大会の中止・延期・web開催などを決定したところも多数あることはご承知の通りです。海外在住会員はいない当学会でも、3月初めよりメールによる常任幹事会を恒常的に開催し、会長を中心に鋭意検討を続けておりますが、現段階では通常通りに大会を開催する予定です。また、会場での感染防止のため、大会校には間隔を空けて座れるように大きな教室を手配していただきました。

とは申せ、事態は流動的です。情勢に鑑み、今後、緊急に大会を中止（2021年に次の会場で第44回大会を開催）または延期（2021年に改めて甲南女子大学で第43回大会を開催）する場合の指針について、以下のように定めましたので、ご承知置きください。

開催可否の判断ならびに周知徹底の方法について

開催可否の判断は以下の手続きで行い、最新情報はただちにHPに反映させるとともに郵送で周知徹底します。また、事務局に電話（平日9:00-17:00はほぼ在室）・メールでご照会いただいても結構です。

- ① 大会校である甲南女子大学が使用不可となった場合、その時点で中止または延期（史料見学会の会場である甲南大学が使用不可となった場合は、史料見学会のみを中止）とします。
- ② 甲南女子大学が使用可でも、情勢を見ながらメールによる臨時的常任幹事会を開催し、開催可否の判断を行います。その時期はどんなに遅くとも、大会1ヶ月前かつ相当数の大学が授業を開始している4/23（木）までとします（もちろん、これ以降も①は起こりえますが）。
- ③ 開催可否に関する最新情報はすみやかに公式HP（4月からアドレス変更）に掲載しますが、中止または延期となった場合は別途、文書を作成して全会員に送付します。

※新しい公式HPアドレス→<http://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>

（ブックマークをつけている方は至急変更して下さい。）

なお、開催できない場合、中止・延期のどちらになるかは未定ですが、いずれにしても次回大会は1年後（2021年5月頃）の予定とします。

大会を中止または延期する場合の措置について

発表を申し込まれた会員（および昨年度に発表を済まされた会員）の皆さまにおかれては、論文投稿の機会がどうなるのかご心配かと存じますが、大会開催ができない場合、発表を申し込まれた会員については発表を済ませたものとして投稿を受け付けます。通常通りにご発表・ご投稿の準備をお進めください。

また、次回総会は会長・幹事の交替という重要な議案がありますので、議案書を送付してご意見・ご質問をe-mail・郵送にてお寄せいただく形で別途開催する予定です。

第 43 回 大会 に つ き ま し て

軽部勝一郎（甲南女子大学）

全国地方教育史学会第 43 回大会を甲南女子大学で開催できますこと、大変光栄に思っております。まだ熊本学園大学におりました 2016 年に、吉川会長と佐藤前事務局長から大会の開催についてお声掛けいただきました。その際は諸事情により不義理にもお断りいたしました。その後、一昨年に三上事務局長から再度のお声掛けをいただき、お引き受けした次第です。甲南女子大学は神戸市内に位置するとはいえ、必ずしも交通の便がよいとは申せませんし、私自身初めて学会大会をお引き受けするということもありまして、みなさまにご不便をお掛けするところが多々あるかと存じますが、何卒ご寛恕のほどお願い申し上げます。

『通信』前号で三上事務局長がお書きくださったように、今大会は初日（5 月 23 日・土曜日）の史料見学会を甲南大学の甲南学園史資料室で、二日目（5 月 24 日・日曜日）の研究発表とシンポジウムを甲南女子大学で実施します。甲南大学と甲南女子大学はキャンパスの位置も法人も異なります。この点、まずご注意くださいと思います。とは申しましても、両大学は兄妹の関係にあることは確かです。甲南大学は前身の旧制甲南中学校創立から昨年 100 周年を迎え、甲南女子大学は前身の甲南高等女学校創立から本年 100 周年を迎えます。両大学が位置する神戸市東灘区には、明治末年から関西の財界人たちが多数居住するようになり、彼らの子女を受け容れる教育機関設立の機運が高まります。そうした背景のもと、1911（明治 44）年に甲南幼稚園、1912（明治 45）年に甲南小学校、1919（大正 8）年に旧制甲南中学校、1920（大正 9）年に甲南高等女学校が設立されました。前三者の設立にあたって中心的な役割を果たしたのが、後に広田弘毅内閣で文部大臣を務める平生鈞三郎であり、甲南高等女学校の設立にあたって中心的な役割を果たしたのは、安宅産業（1977 年に伊藤忠商事に吸収され消滅）の創業者安宅弥吉でした。旧制甲南中学校は 1923（大正 12）年の旧制甲南高等学校の発足に際し、その母体となりました。

甲南大学、甲南女子大学ともに現在、年史編纂事業が進んでおりますが、とりわけ甲南大学では、これまでの年史編纂（『五十年史』『八十年史』等）の経験をふまえて、熱心に資料の収集に取り組んでおります。そこで今大会の史料見学会は、『五十年史』編纂に際して収集した資料の展示を目的に開設された甲南学園史資料室の見学、旧制甲南中学校設立以来の資料が保存されている収蔵庫の見学など、甲南大学構内の諸施設にて実施することにいたしました。収蔵庫には、平生鈞三郎の日記の原本や旧制甲南高等女学校設立関連の文書なども保存されておりますので、そうした一次史料を手にとって閲覧できるようお願いしております。なお当日は、年史事業のとりまとめをされている、甲南学園総務課の方がご案内ご説明くださいます。

昨年の大会に引き続き、私学の年史事業の概要を会員のみなさまにご覧いただくこととなりますが、年史事業ならびに大学アーカイブズの多様性と重要性についてお考えいただく機会になれば幸いです。

初日夜の懇親会は、蔵元直営の食事処「さかばやし／神戸酒心館」にて実施します。着席スタイルの懇親会となりますが、三種類の日本酒が飲み放題のコースを予約しますので、灘の酒をぜひお楽しみください。

2 日目のシンポジウムは、「都市の教育問題」というテーマを吉野剛弘シンポジウム担当幹事が設定され、準備を進めてくださっています。充実したシンポジウムになるものと、今から楽しみにしております。

新型コロナウイルスの影響が心配される場所ですが、無事鎮静化し、みなさまをお招きできますことを願っております。

全国地方教育史学会第43回大会プログラム

■ 大会日程表 ■

5月23日（土曜日） 大会初日 甲南学園史資料室、食事処「さかばやし」	5月24日（日曜日） 大会2日目 甲南女子大学10号館
<p>14:00 甲南学園史資料室（甲南大学岡本キャンパス1号館1F）に集合。旧制甲南高等学校ならびに創立者平生鈞三郎等に関する展示の解説・観覧。</p> <p>14:30 キャンパス内の歴史的遺構を見学。</p> <p>14:45 資料収蔵庫の見学。 100年史編纂事業ならびに資料収蔵庫の解説、収蔵庫保存資料（旧制甲南高等学校ならびに平生鈞三郎関連の資料）の閲覧。</p> <p>16:00～16:15頃 終了。</p> <p>16:30 「福寿」の蔵元直営の食事処「さかばやし」の送迎バスで移動。</p> <p>16:50 併設の物販店にて待機（試飲、買い物等）。</p> <p>17:30 懇親会開始。</p> <p>19:30 懇親会終了。JR神戸線・六甲道駅まで送迎バスあり。利用希望者10名未満の場合はタクシー。</p>	<p>9:00：受付開始。参加費無料につき年会費（¥4,000）のみ。</p> <p>9:30：研究発表（1061教室）。</p> <p>12:00-13:00：休憩。なお、1061教室は飲食不可（給水は可）につき、昼食は会員控室（10号館2F「フリースペースA」）にて。 〔※12:00-13:00：第1回全国幹事会・第1回常任幹事会（総合子ども学科コモンルーム）。〕</p> <p>13:00-15:30：公開シンポジウム（1061教室）。</p> <p>15:30-16:00：総会（1061教室）。</p>

◎大会初日の史料見学会のみ、甲南大学岡本キャンパスにて開催します。当日、甲南大学では保護者会が開かれており、学内の食堂は保護者会場として使用するため利用できません。あらかじめ昼食を済ませてお越してください。なお、甲南大学には喫煙所があります（場所は当日ご案内します）。

◎懇親会は、「福寿」の蔵元直営の食事処「さかばやし／神戸酒心館」で開催します。懇親会費は5,500円です。なお、「さかばやし」に喫煙所はありません。

◎大会参加費は今年度のみ無料、年会費（¥4,000）は大会2日目に受付で徴収します。準備の都合上、「史料見学会」「懇親会」「研究発表」への参加の有無について、5月8日（金）迄に大会校（軽部勝一郎会員：kkarube@konan-wu.ac.jp）へご連絡下さい。メールのタイトルは「地教史大会参加」として下さい。

◎大会2日目は学内の売店・食堂が営業しておらず、大学至近にコンビニや飲食店はありません。あらかじめ昼食を確保してお越してください。最寄りのJR「甲南山手（こうなんやまて）」「摂津本山（せつつもとやま）」「芦屋」の各駅改札前にコンビニがあります。阪急「岡本」駅最寄りのコンビニは駅改札口から100メートルほど坂を下った右手にあります。なお、甲南女子大学に喫煙所はありません。

◎宿泊は各自で予約してください。JR「三ノ宮」（阪急「神戸三宮」）駅あるいはJR「大阪」（阪急「大阪梅田」）駅周辺が便利です。当日、神戸市内で大きな行事は予定されていないようです。

◇会場へのアクセス

（1）甲南学園史資料室（甲南大学岡本キャンパス）：神戸市東灘区岡本8-9-1、<https://www.konan-u.ac.jp/access/>
JR神戸線・摂津本山駅より徒歩12分、阪急神戸線・岡本駅より徒歩10分です。

① 山陽新幹線・新神戸駅からは、地下鉄三宮方面に乗り、1駅進んだ三宮駅でJR神戸線大阪方面の各駅停車に乗り換え、5駅でJR・摂津本山駅に着きます。新神戸駅からの所要時間は、乗り換え時間を含め30分ほどです。

②大阪（伊丹）空港からは、モノレールに乗り、1駅進んだ「蛍池（ほたるがいけ）」駅で乗り換え、阪急宝塚線梅田方面に乗り、途中の「十三（じゅうそう）」駅で阪急神戸線神戸三宮方面に乗り換えて岡本駅までお越してください。蛍池・十三・岡本のいずれも急行停車駅ですので、急行をご利用下さい。大阪

(伊丹) 空港から「岡本」駅までの所要時間は、乗り換え時間を含め 50 分ほどです。

(2) 食事処「さかばやし」：神戸市東灘区御影塚町 1-8-17、<https://www.shushinkan.co.jp/access/>
史料見学会にお越しの会員には「さかばやし」の送迎バスを手配していますので、そちらをご利用ください。直接お越しの会員は同店のホームページにてご確認ください。

(3) 甲南女子大学 10 号館：神戸市東灘区森北町 6-2-23、<http://www.konan-wu.ac.jp/access/>

A. 「森北町どんぐりバス」(東山プラザ行き)：みなと観光バス、<https://www.kobe-minato.co.jp/morikita.html>

JR 神戸線・甲南山手駅前から乗車、「岡本テラスハウス前」で下車(乗車時間 5 分、¥210)、30 メートルほど坂を下ると右手に正門があります。車両は小型バスで、始発は 7:50、以後、毎時 20・50 分の 30 分間隔(11 時台は 50 分のみ)。甲南山手駅までは、JR 三ノ宮駅から JR 神戸線大阪方面の各駅停車で 6 駅 13 分、JR 大阪駅から JR 神戸線新快速・快速の三ノ宮・姫路方面行に乗車、途中の芦屋駅で各駅停車に乗り換えて 1 駅、所要時間は乗り換え時間を含め 20 分ほどです。

B. タクシー：タクシーが常駐しているのは以下の 3 駅のみです。

①JR 摂津本山駅：改札を出て右に進み、階段を降りたところにタクシープールがあります。乗車時間 5～10 分、約¥1,000。

②阪急岡本駅：改札を出て左に 30 メートルほど進んだ左手にタクシー乗り場があります。乗車時間 5～10 分、約¥1,000。

③JR 芦屋駅：改札を出て右に進んだ北口にタクシープールがあります。乗車時間 10～15 分、約¥1,500。

上記二駅よりもタクシーの台数が多く、JR 神戸線新快速・快速の停車駅で三ノ宮駅から 8～11 分、大阪駅から 13～15 分と便利です。

C. 徒歩

JR 甲南山手駅から往路 15 分・復路 10 分。神戸らしい登山(下山)を楽しめます。

◇パソコンを使用して発表される会員の皆様へ

パソコンはご持参いただいても、備え付けのものを使用されても結構です。なお、ご持参いただく場合、当日のセッティングはご自身でお願いします。

■ 研究発表・シンポジウム・総会 ■

〈大会 2 日目 5 月 24 日(日曜日)〉 甲南女子大学 10 号館

研究発表	9:30-12:00	会場	1061 教室
------	------------	----	---------

司会：佐藤 環(茨城大学)・柄越 祥子(慶應義塾福澤研究センター)

(1) 9:30-10:00

開拓使函館支庁・函館県における学校経費確保策の展開

井上 高聡(北海道大学大学文書館)

(2) 10:00-10:30

増田義一における雑誌づくりの思想と行動

田中 卓也(静岡産業大学)

(3) 10:30-11:00

1930年代、京都府における私立学校卒業生の小学校教員免許状取得過程

——「小学校教員臨時試験検定認定校」卒業生の場合——

遠藤 健治(美作大学)

(4) 11:00-11:30

総力戦体制下の教化運動に関する考察

——教化町村運動と経済更生運動との関連について——

大蔵 真由美 (松本大学)

◎ 11:30-12:00

全体討論

シンポジウム 13:00-15:20

会場 : 1061教室

テーマ : 「都市の教育問題」

シンポジスト : 鳥居 和代 氏 (金沢大学)

大多和 雅絵 氏 (横浜市学校事務職員)

久保田 英助 (関東学院大学)

司 会 : 吉野 剛弘 (埼玉学園大学)

総 会 15:30-16:00

会場 : 1061教室

レジュメ・資料等は当日配布いたします。

※以上のほか、会場等についてご不明の点は、大会校の軽部勝一郎会員までご照会下さい。

e-mail : kkarube@konan-wu.ac.jp

第5回 「地方の状況」：鳥取県教育史の史料編纂状況

白石崇人 (広島文教大学)

筆者は、2016年に東洋大学で開かれた本学会第39回大会シンポジウムで、『新鳥取県史』近代編の編纂状況を報告したことがある。現在、『新鳥取県史』近代編の編纂はすでに終了しており、先回の報告からいっくらか新しい状況があるので、紹介したい。

1. 『新鳥取県史』以前

鳥取県教育史をひもとくには、県教育委員会主導による『鳥取県教育史』全4巻が欠かせない(第1・2巻は巻数がついていないが、便宜上第1・2巻と呼ぶ)。各巻とも頁数多数で分厚い。第1巻は、1632年(池田光仲鳥取入部)から1945年(第二次世界大戦終了)までを対象とし、江戸期・明治期・大正昭和期で構成して、学校制度の発展に関する概要を論述して1957年に発行された。第2巻は戦後(1945～1957年)を対象にして1959年に発行され、第3巻は戦後(1945～1978年)を対象にして1979年に発行され、第4巻は第3巻以降(1979～1998年)を対象にして1999年に発行された。教育委員会が発行に関わった戦前の鳥取県を対象にした教育史は、そのほかに『鳥取市教育百年史』(1974年)や『米子市初等教育史』(1982年)などがある。しかし、県規模の戦前教育史は1957年に編纂されたきりであった。

もう一つ、自治体史でも教育史は扱われてきた。まず、旧『鳥取県史・近代』全5巻(1967・69年)では、第1巻総説篇において学術文化・体育・農業教育・私塾・私学の章でそれぞれ扱われた。また、近代第4巻文化篇では、全8章のうち、第2章が学校教育、第3章が社会教育、第4章が体育・スポーツを扱っている。また、近代第5巻資料篇は復刻史料を収めており、この中に教育史料93点を含んでいる。また、『新修鳥取

市史』全5巻（1983～2014年）においても教育史が取り上げられ、第5巻（2008年）に明治教育篇・社会篇として編纂されている。『新修鳥取市史』は、2021年に第6巻（大正編）の刊行が計画されている。

以上の通り、旧鳥取県史編纂事業とその後続く各種自治体史編纂事業の中で、鳥取県教育史は、学校制度の成立・確立・発展と、社会教育の進展、スポーツ・運動の振興過程として描かれてきた。しかし、1957年の『鳥取県教育史』編纂と1967・69年の『鳥取県史』編纂以来、戦前を含めた県教育史について公的機関による編纂は行われてこなかった。そんな中、旧『鳥取県史』以後に発見や研究の進展のあった事項や、旧『鳥取県史』で十分に取り上げられなかった事項を調査研究するために、2006年、新鳥取県史編さん事業がスタートした。2010年から刊行が始まった『新鳥取県史』は、その研究成果である。筆者は2012年から2018年までこの事業に近代部会の調査委員として携わった。

2. 『新鳥取県史』における教育史料

『新鳥取県史』は、通史編をつくらず、資料編だけで構成されている。考古、古代中世、近世、近代、現代、民俗の6部会がそれぞれ研究を進め、全22巻の刊行を計画している。このうち未刊は「考古2 古墳時代」と「現代2 経済・社会・文化」の2巻であり、2020年3月までにすべての刊行を終える予定である（近代部会はすでに役目を終えて解散済み）。資料編だけの刊行であるが、掲載されている史料解説を通して読めば、それなりの歴史像を読み取ることは可能である。また、資料編と並行して刊行されてきた鳥取県史ブックレット（現在21タイトル、<https://www.pref.tottori.lg.jp/284675.htm>）は、新鳥取県史編さん事業における研究調査の成果を県民に紹介する意図で編集されている。

さて、『新鳥取県史』における教育史料は、各巻に周知的・断片的に取り上げられているが、まとまったものが「近代4 行政1」の巻（2016年、所収教育史料54点）と「近代7 産業・教育・文化」の巻（2018年、所収教育史料106点）に掲載されている。そのうち、章のタイトルと、教育史関係の章節タイトルを抜き出すと、以下の通りになる。近代4は2016年の本学会大会で紹介したが、近代7は初めて紹介する。

『新鳥取県史・近代4 行政1』目次

- 第1章 鳥取県再置と島根県からの事務引継
- 第2章 郡役所と郡政
- 第3章 明治期の村と教育
 - 第1節 学事状況
 - 第2節 義務教育六年制以前の就学督励
 - 第3節 義務教育六年制以前の小学校行政
- 第4章 町村制施行前後の村
- 第5章 地域における農業
- 第6章 明治後期から大正期の地域動向
 - 第4節 青年団・その他
- 第7章 日露戦争後の教育と地域
 - 第1節 天皇制・国家にかかわる学事方針
 - 第2節 義務教育延長後（六年制）の就学督励
 - 第3節 義務教育延長後（六年制）の小学校行政
 - 第4節 実業補習学校

『新鳥取県史・近代7 産業教育文化』（教育のみ抜粋）

- 第1章 近代学校の形成と模索（～明治39年）
 - 第1節 小学校の経営方針・教育方法の模索
 - 第2節 中等教育の模索

第3節 教員養成

第4節 教員集団・教師論

第5節 青年教育・社会教育

第2章 義務教育六年制に基づく教育の発展（明治40年～大正15年）

第1節 小学校における経営方針と大正新教育の展開

第2節 中等教育の展開

第3節 多様な教員養成

第4節 教員の教育研究の発展

第5節 青年教育・社会教育

第3章 昭和戦前・戦時期における教育

第1節 小学校の経営方針と教育方法

第2節 中等教育

第3節 教員養成

第4節 教員集団・教師論

第5節 青年教育・社会教育

第6節 幼児教育・保育

以上の『新鳥取県史』近代4・7における教育史料の特徴は、おおよそ次のように整理できる。第1に、郡・村の史料から小学校や郡・村の教育行政などの史料を集めた。就学督励行政や小学校の簡易科・農業科・家事科加設など、郡・村の事情に沿って教育史の動向に迫ることができる。鳥取県では実業補習学校がなかなか普及しなかったため、行政が苦心していたことがわかる史料も含まれている。課題としては、義務教育六年制の施行（1907年）や戦争を画期に位置づけて整理したが、近代4の章構成に顕著なように、政治史の画期に位置づけられている町村制施行と絡めることができなかつた点である。

第2に、小学校史料について、鳥取市・県東部の史料だけでなく、県中部・西部の史料をカバーした。主に鳥取高等小学校・久松小（県東部）、成徳小（県中部）、角盤高等小学校・弓浜小・就将小（県西部）などの史料から選定し、県全域の教育史を捉えることができるように努めた。課題としては、各地域の代表的な小学校の史料を収めるに止まっているので、一般的な小学校の姿を捉えるには不十分である。しかし、自治体や学校の合併統合や建物新設・移転、資料保存の責任者の意識、災害などによって、教育史料は廃棄・散逸の危機にさらされており、地域の代表的な小学校の史料を確認することすら難しくなっている現状においては、貴重な復刻であったと考えている。

第3に、中学校・高等女学校・実業学校・師範学校の実態を写し出すような生徒生活に関わる史料を選定した。寄宿舎や校友会活動、修学旅行、生徒の作文などの史料を選んだ。私立学校の史料も意識して集めた。また、関連して高等小学校の校友会活動に関する史料も選定したが、珍しい史料ではないかと考えている。課題としては、県中部の史料も集めたものの、結局、鳥取市内の中等学校の史料に偏ってしまったところである。

第4に、教員養成の史料を師範学校はもちろん、講習関係の史料も選定した。師範学校史料については、なるべく生徒の動向を把握できるような史料を選定した結果、教育実習の関係史料も少し収録した。また、鳥取県立農学校農業教員養成科の史料も収録できた。なお、鳥取県師範学校については後身の鳥取大学に史料があまり残されておらず、史料選定に苦慮した。旧蔵図書はある程度残っていたが、『一覽』についても一部しかなく、県立文書館に所蔵されていたものを利用した。新制大学における前身の包括校の史料保存状況は、大学文書館や年史編纂室などの役割が大きい。他の大学における史料保存の現状はどうなっているだろうか。

第5に、教員関係の史料を師範学校に限らず、講習科や教員検定、教員集団、教育研究、教師論の史料も選定した。日本教育史研究では師範学校史研究が伝統的に盛んであるが、教員養成に限っても、傍流と見なされてきた師範学校の講習科や教員検定試験準備機関の役割が大きかった。いずれもその地方の事情に基づ

いて設けられているので、今後の地方教育史研究においてこれらの史料収集・復刻は重要な仕事になると考える。また、養成に限らず、教員社会や教職アイデンティティなども含んで広く教員史研究を進めるには、教育会などの教員集団や地方教員の教育研究制度・教師論などの史料が必要である。地方の教育研究制度や教師論は、中央の制度・学説やジャーナリズムの影響を受けている面はあるが、その地方の事情や自分たちの実践などを反映して成立していたため、地方教育史研究からのアプローチは重要だと考える。

第6に、補習教育や青年団、図書館、社会教育主事などの社会教育関係の史料を選定した。特に、鳥取県教育会が設置した船上山道場の史料を選定した。同道場設置事業は、郷土の偉人としての名和長年の顕彰という面もあったため、郷土教育史の観点からも重要な史料になるだろう。

第7に、農繁期・季節託児所や託児所保姆の史料を選定した。これは、幼稚園について旧『鳥取県史』が復刻した史料以上のものを発見できなかった結果でもある。とはいえ、これまで注目されてこなかった季節限定の託児所制度や、保育士の前身である託児所保姆の史料復刻は貴重であると考えた。

3. まとめ

以上、『新鳥取県史』の教育史史料編纂に関わった当事者として報告してきた。『新鳥取県史』は、旧『鳥取県史』や各種の鳥取県教育史と合わせて利用することで、地方教育史研究に資することができると思う。私の能力と関心の範囲内ではあるが、新しい観点をに入れて編集したのでご確認いただければ幸甚である。

◆寄贈図書（2019年3月31日までの事務局到着分）

なし。

◆入会・退会・異動（2019年3月31日までの事務局到着分）

入会：小尾麻希子（武庫川女子大学短期大学部）：戦後日本の幼稚園カリキュラム成立史（国立大学附属幼稚園を中心に）

退会：嶋耕二（石川県教育委員会・明星大学[院]）
山崎真之（東京国際大学）

異動：笠間賢二（宮城教育大学）、2020年4月1日より宮城教育大学[名誉]。

久保田英助（愛知学泉大学）、2020年4月1日より関東学院大学。

◆事務局より

新年度に異動された方（および郵送先を変更される方）は、事務局まで、①所属（名誉教授となった方もその旨、お知らせ下さい）、②今後の郵送先（変更がない時はその旨）、③事務局からの連絡先電話番号およびメールアドレス（自宅・勤務先、固定・携帯、公用・私用の別を問わず、複数登録も可）をお知らせ下さい。なお、所属以外で非公表を希望するものがある場合は、その旨、明記して下さい。

また、会費未納がある方には払込取扱票を同封してあります。郵便局（ゆうちょ銀行）でお支払い下さい。

全国地方教育史学会 事務局

〒002-8502

札幌市北区あいの里5条3丁目1-5 北海道教育大学 三上敦史研究室内

TEL/FAX 011-778-0380

e-mail mikami.atsushi@s.hokkyodai.ac.jp

学会ホームページ <http://w3.waseda.jp/assoc-zckyoiku/>
